

築田寺だより

Ryoudenji Letter



2023.12

令和五年、大変お世話になりました。

ありがとうございます。

悲しみも、喜びもあつたこの年。何と会い、何とはなれていったのか。極月の十二月。師走ではありますが、自分を見失わず、他人の幸せに一手でも差し伸べられるように出来ればと願います。

ありがたいことですが、総代の牧野仁さんご夫妻が愛母の死にあいながら、今年、お稲荷さまの社屋を直していただきます。千年前のハリギリ（元東京都指定天然記念物）の古材を使って再建を決意してくださいました。それに、開門日和（寺の縁日）の野菜販売、息子友輝さんのグループ展（絵画・彫刻作品を境内で展示 ※十二月三日に終了）そして勿論長年の園児さんの農業体験指導。悲喜こもももの中で、一つ一つ乗り越えていく姿こそ故人の最も安心される生き方（報恩行）の一つと思います。築田寺の檀信徒の皆様も、何かできる事があつたら「寺」を場として、生き方、生きがいに通ずるよう考え

てください。手を共に携えることとは、そういうことだと思えます。とにかくお寺においでください。

「生老病死」の避けられない現実の中で、寺はなぐさめの場のみではなく、生き方を知る場でもあります。生き方に悩み、老いに苦しみ、病にどう向き合うか。逃げることは出来ないのですから真正面に向き合つて、覚悟を決め泰然として日々を過ごす。その場として、仏陀を中心とする寺院があります。人の話を聞くだけでも、大いなる布施行であり、また愛語行ともなります。美しく、清らかに、生きましよう。もちろん坐禅して、息を整え、心を整える場でもあります。また三世（過去・現在・未来）の人々との話も出来ますね。お年賀もまず過去世の先祖から。足元をしっかりと確認しながら願い、志を立てていきましょう。

お墓詣りに来たら、門前のコーヒー屋さんに来てください。わざわざ都心部から、美味しいコーヒーを探してやってくる方も多いですよ。また花屋さんもあります。花の教室も開いて、日々花を咲かせようとしてい

ます。「精進食堂ときとそら」にお昼も食べに来てください。しぜんの国保育園旧園舎に「子ども食堂」もありますよ。境内でお香も作れます。

お子さん、お孫さんも連れてきてください。寺の庭で遊んだ思い出は、一生忘れられない良い記憶となります。もしよかつたら、少し鯉の餌などをもちいただと、龍王ヶ池の鯉が喜ぶと思います。この谷戸にタヌキが住んでいて…などというこぼれ話も忘れられないものかもしれません。山にはドングリヤムクロジの実（羽付きの先につける実）などもあります。谷戸から眺める白雲も、さまざまな形を想像して楽しいです。



美しい築田寺の紅葉

〔行事〕

<p>◆ 9時 お餅つき</p> <p>◆ 11時半～ 16時頃 開門日和</p>	<p>歳末お餅つき 開門日和 12月24日(日) 9時～</p>
---	--

年末恒例のお餅つきを行います。今年も同時開催します。出店多数。アンビエントライブ・小田晃生ソロライブあります。つきたてのお餅を入れると美味いおしるこ販売もします。また、花糸がお正月のしめ縄・お正月花を販売します。心を込めて一つ一つお作りいたします。ぜひお越しください。



花糸のお正月花・しめ縄



◀ 築田寺
Instagram
「開門日和」の
情報はこちら



年末年始

<p>◆ 31日 17時 晩課及巡堂 (山内を巡り一年を感謝します)</p> <p>◆ 元日 10時 大般若会 (檀信徒、参禅会対象)</p> <p>11時 旧檀家新年御祈祷会</p>
--

〔お知らせ〕

宿坊泰全がオープン！

築田寺宿坊「泰全」が去る十月二十八日に正式オープンしました。この日はゲストに古代ギリシャ研究家の藤村シンシンさんをお呼びして、開店のテープカット、開店祝いの菓子蒔き、そして副住職と「意外なつながり!? 古代ギリシャと日本の禪」というテーマで対談もしていただき、大盛況でした。ぜひ宿坊に泊まってお寺の自然と禪を体験してください。



副住職と
古代ギリシャ研究家の
藤村シンシンさん

〔偶感〕

令和五年秋、例年に比べて、キイジョウロウホトトギスの群生に見とれた秋であった。たまたま牧野富太郎博士の「らんまん」の朝ドラの冒頭にこの花が紹介されていたこともあり、美智子さんが少しづつ増やしていったことも相まって、実に美しく北向の斜面に咲きほこったのである。毎朝そちらこちらに咲き出したホトトギスの黄色の花、翌朝さらに増えていく。それに何といつても櫻の老樹の分かれ目に八ツ手の葉天狗が着下したことであろう。これには驚いた。第一発見者の名譽を担う住職という感じで、人に、山門脇に八ツ手が飛来し住み着いたと興奮して伝えながら過ごした。何人にも、その日出会う人たちに紹介するのだが、私の興奮ほどには至らず反応が薄い。魔除けの木であり、幸せをもたらすと一生懸命に説明するのだが、珍しい、だけで終わってしまう。他人事だと思ふと熱が入らないのだろう。私も他家の事だと同じだったと反省する。そして何よりも、今年の月は素晴らしかった。「仲秋の名月」も「後の月」もよかつたなあ。思わず見とれてしまった。堂屋敷谷戸と呼ばれた寺の東空の夜は素晴らしい。月は同じでも気の入れようによって全く輝きが違う。記憶に吸い込まれて実に確かなものになっていく。

まあとにかく今年の秋空は素晴らしかった。



キイジョウロウ
ホトトギス



八ツ手の葉天狗

